

道しるべ

ひたちなか市立勝田第二中学校
進路だより 第5号
令和8年9月1日（火）発行



澄んだ青空が秋の気配を感じさせます。夏休み中、県立・私立高校では、主に3年生を対象に、学校説明会や部活動体験などが実施されました。生徒たちは、実際に自分の興味・関心がある高校に行き、学校の概要について知ったり、授業や実習、部活動を体験したりしました。高校の雰囲気なども感じる事ができ、今後の進路選択への大きな資料になったと思います。「その高校で何をしたいのか」、目的をもって進学することは重要です。この体験をもとにご家庭でも深く話し合っていてほしいと思います。また、1年生は、ひたちなか市を中心とした事業所のご協力や「ひたちなかキャリア探検ラリー」を活用して職場見学・体験を行いました。貴重な経験は自信となり、生徒たちを一回り大きく成長させてくれたことでしょう。これからの活躍が楽しみです。学習や学校生活など、生徒一人一人が目標に向かって努力できる雰囲気を大切にしていきたいと思います。



生徒の感想から（学校説明会・部活動体験など）

- ・授業を全部動画で撮影していて見返せるようになってきているシステムや校内にコンビニがあるなど、学習や学校生活のための環境が充実している。（茨城高）
- ・先輩が資格を多く取得していた。資格を多く取得することや勉強を怠らないことで、多くの就職先を選ぶことができることが分かった。いろいろなものが作れて楽しそうだった。（勝田工高）
- ・体育の授業が屋内であるため、夏は熱中症などの危険がない。制服はパーカーなどがあり、バリエーションが豊富だった。（大成女子高）
- ・生徒の自主性を重んじる校風が魅力的だと思った。（水戸一高）
- ・学校も行事も本当に楽しそうだった。実際に行って、通学の利便性や各学科のよいところを見て体験して知ることができた。いろいろな個性の先輩や先生がいて、高校生になるのが待ち遠しい説明会だった。（水戸三高）
- ・中学校よりも通学や課題など大変そうなこともあるけど、自由なことも多いと分かった。文化祭が毎年あるのがよかった。先輩が気さくに話しかけてくれて雰囲気がよかった。（緑岡高）
- ・先輩や学校の雰囲気がよかった。駅から近くて通いやすい。大学に進学するための学習がきちんとできていて学習面では安心できそうだった。（水城高）
- ・学習室やトレーニング室があった。部活動を全力で取り組み、文武両道を実践している生徒が多くいた。短期留学に魅力を感じた。（水戸桜ノ牧高）
- ・進学校として学習面に力を入れているだけでなく、行事や部活動にも全力で取り組み、楽しめることに魅力を感じた。さらに、施設がとても綺麗で、高校生活を送るならここがよいと強く思いました。（水戸二高）
- ・どの先輩も優しく丁寧に説明してくれた。行事も楽しそうなのが多くていい。自習室があり、集中して勉強に取り組める場所があるのは大事だと思った。（那珂高）
- ・留学生とクラスが一緒になる可能性があると聞いて、留学しなくても海外の生徒と交流できるのがいいと思った。（常磐大学高）
- ・とても楽しそうでいろいろな科があり、仲が深まる場が多そうだった。心配なところもあったけれど、体験して安心した。（水戸工高）
- ・自分が志望している高校に行くだけでも、かなり勉強のモチベーションが上がることが分かった。（茨城高専）
- ・文化祭や修学旅行など行事が楽しそう。特に修学旅行は、台湾に行くことがある。（水戸啓明高）
- ・1年生が寮生活で、先輩方が親切だった。先輩方がとても楽しそうに学校生活を送っていた。（日専工）

生徒の感想から（職場見学・体験）

- ・老人デイサービスセンターでの見学や体験を通して、よりコミュニケーションが大切だと実感した。体験する前は、楽しいというより大変というイメージの方が大きかったけれど、楽しくて、やりがいを感じた。（いくり苑）
- ・普段見られない電子顕微鏡を使ってみたりGIタワーを見学したりすることができ、貴重な体験になりました。実際に働いている人の話を聞いて、研究やものづくりには多くの工夫や努力があることが分かりました。これからはこの体験を忘れないで、いろいろなことに興味・関心をもって自分の目でもっと調べたいと思います。（日立ハイテク・GIタワー）
- ・見学する前は、体育館に関わる仕事だけだと思っていたけれど、実際はサウナやテニスコートの貸し出し等もしていて、いろいろなことを考えながら動いていました。自分も学校生活等で、いろいろなことに気付いて、気配りができる人になりたいと思いました。（ひたちなか市総合運動公園）
- ・保育士は、子どもたちと楽しく遊ぶだけではなく、熱中症にならないように気を付けたり、勉強のことを考えたりしながら動かないといけない仕事だと分かりました。大変そうですが、子どもたちと楽しく仕事ができるのはいいなと思いました。（堀川保育園）
- ・市のイベントや海水浴場の開設など、「これも市役所のおかげなんだな」と考えることが多くあった。市役所の方が、相手に分かりやすく伝えることが大切だと話していた。自分も分かりやすく説明するようにしたい。（ひたちなか市市役所）
- ・今回の見学をして、工場での仕事の大変さがわかった。役割によって、暑かったり寒かったり、休憩がしにくい、たくさん動かないといけないなど、違う大変さがある。私はお菓子を食べるとき、作っている人に感謝して食べようと思った。（きくち本社工場）
- ・園児たちは、みんな好奇心旺盛で、初めて見た虫などをすぐに図鑑で調べていた。自分も小さな疑問でもすぐ調べる探究心を身に付けていきたいと思った。（なかや保育園）

定期テストⅡに向けて

9／7(月)は、5科(国・数・英・社・理)の定期テストⅡです。定期テストⅠを踏まえ、夏休みを活用して、テスト範囲をしっかりと復習できたでしょうか。勉強のやる気を引き出す一番のポイントは「わかる」ことです。わかるようになれば自分自身の成長を感じることができて、その喜びが次の勉強に進むやる気を引き出してくれるのです。

☆勉強のやる気を持続させる5つの方法☆

1. まずは取り掛かる

勉強をする際の最大の関門は、「勉強を続ける」こと以上に「勉強を始める」ことにあります。何をするよりもまず先に机に座り、勉強道具を広げ、どんなに簡単なことからでもいいので、まずは勉強を始めることを心掛けましょう。

2. わかるところから始める

勉強のやる気を損なわせる大きな要素のひとつが「わからない」ことです。最初のうちは、「わからなければ飛ばす」くらいの心構えで、わかるところからどんどん勉強に取り組むようにするとやる気が長持ちします。

3. 目標をもって取り組む

目標をもって勉強に取り組むことはとても大切です。「〇ページまでは終わらせる!」「△△を覚える!」というような目標をもつことで、「集中して早く終わらせよう!」という意識が働きやすくなり、勉強に取り組むやる気も持続しやすくなるのです。

4. 「読む」より「書く」を多めにする

教科書を読む、というだけの行為は集中力を途切れさせやすく、「読んだ気になっている」だけの状態になりやすいです。「気になるところをノートにメモする」「自分だったらここを出題するなという問題を見つけてオリジナルの問題集を作る」など、読むだけに終わらないようにする工夫が必要です。

5. 「わからない」ところを特定する

漠然と「わからない」という状態では手を付けることができませんが、「ここがわからないんだ!」と特定さえできれば、さかのぼって復習をして、やがてその問題を解けるようになります。友人や親に聞いたり、解答を見たりしながら、その問題のどこでつまづくのかを探すようにしましょう。